

## 令和6年度第2回春日井市地域包括ケア推進協議会議事録

1 開催日時 令和7年3月4日（火）午後2時から午後3時まで

2 開催場所 市役所6階 研修室

3 出席者

【会長】	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター	三浦	久幸
【委員】	中部大学	白石	知子
	春日井市医師会	前田	誠司
	春日井市歯科医師会	川口	剛
	春日井市民病院	小栗	光俊
	愛知県認知症疾患医療センター	柴山	漢人
	春日井市介護保険居宅・施設事業者連絡会	若月	剛治
	春日井市介護保険居宅・施設事業者連絡会	大野	哲嗣
	春日井市民生委員児童委員協議会	池田	恭子
	春日井市社会福祉協議会	大塚	淳弘

【欠席】	春日井市薬剤師会	林	きよみ
	春日井保健所	増井	恒夫
	地域福祉アドバイザー	南部	哲男

【事務局】	健康福祉部長	神戸	洋史
	地域共生推進課課長	長坂	匡哲
	課長補佐	上野	陽介
	主査	堀江	侑帆
		田中	衣里
		佐々木	朋子
		佐藤	和子
	健康増進課課長	兒島	康万

【傍聴者】 5名

4 議題

(1) 令和6年度春日井市地域包括ケア推進状況報告

ア 在宅医療及び介護連携について

- イ 認知症総合支援について
- ウ 生活支援体制整備について
- エ 介護予防について

## 会議資料

資料1 春日井市地域包括ケア推進状況報告

資料2 令和7年度春日井市地域包括ケア推進事業の主なスケジュール（案）

## 6 議事内容

議事に先立ち、会議は公開で行うとともに議事録は要点筆記とし各委員が確認手続きを行った上、会長及び会長が指名する者が署名することを確認した。

### (1) 令和6年度春日井市地域包括ケア推進状況報告について

#### ア 在宅医療と介護の連携について

【堀江主査】 資料に基づき説明

【川口委員】 入退院支援ルールについてはどこかに掲載されているのか。

【上野補佐】 掲載はしていない。この事業は県モデル事業として尾張北部医療圏で策定したものである。また、春日井市独自のルールとして、医療保険証にかかりつけ医の診察券とケアマネジャーの名刺を一緒に保管することとしており、その他のルールの項目は、病院は入院時にケアマネジャーに伝える、ケアマネジャーは入院から3日以内に入院医療機関に在宅の状況を伝える、これを受けて病院はケアマネジャーに受け取った旨を返信することと4点の項目としている。

【川口委員】 前回もお聞きしたが、歯科受診していた人の退院後の状況が分からず、連絡が取れない状態になったことがあった。今回作成の入退院支援ルールでは歯科医院にも連絡が来るのかが気になった。

【上野補佐】 かかりつけ医も同様であり、すぐに退院する場合はよいが、入院が長期化する場合はかかりつけ医に情報提供の必要があり、今回の入退院支援ルールでは詰め切れていない。今後、運用の検証の場で協議していきたい。

【小栗委員】 病院現場から見ると、退院や転院になった際に、医師がケアマネ

ジャーやかかりつけ医に連絡することまで手が回らないため、この作業を誰が代行するのかを院内で検討している。

【三浦会長】 医療保険証にかかりつけ医の診察券に加えて、かかりつけ歯科医の診察券も入れることで解決するのではないか。

【上野補佐】 歯科医院の診察券が入っていても、治療が継続されているかが判断つかないため、どのような場合に連絡したらよいのかが課題となる。全例を対象とすることは事務負担が増大するため、検証会でも効率的に情報共有することが必要との意見が出ている。

【小栗委員】 かすがいねっと連絡帳について、在宅医との連絡については普及してきているが、24時間体制で確認するのは難しい。どこまでダイレクトに返信、確認していくのか悩ましい。

【上野補佐】 かすがいねっと連絡帳は随時確認ではなく、1日に1回程度は確認してほしいとお願いしている。医師やケアマネジャーがお互いに連絡できる時間帯が異なっても、かすがいねっと連絡帳を利用することで、気兼ねなく連絡できることがメリットの一つである。

【三浦会長】 電子連絡帳（かすがいねっと連絡帳）の使い方として、病院との連携に活用したいとの動きはあるが、他市においても、なかなか進まないと聞いている。春日井市から少しづつでも取り組んでいけるとよい。

在宅医療・介護サポートセンターが春日井市医師会が再度運営されることになった経緯等について、前田委員からお聞かせいただきたい。

【前田委員】 在宅医療・介護サポートセンターは、医師会としては担当職員の確保に苦慮し、また、2025年度の地域包括ケアシステム構築により事業が継続されるか不確かと考えていたため、一旦は春日井市へお返しした経緯がある。2025年度以降も事業が継続されることとなり、担当する職員の確保もできる見込みがあることから、改めて受託することにした。医師会が受託することで、春日井市の多職種連携をより推進させていきたいと考えている。

## イ 認知症総合支援について

【堀江主査】 資料に基づき説明

【三浦会長】 オレンジガーデニングプロジェクトは、地域包括ケアの取り組みが盛んな長岡市から始まったとのことだが、春日井市はオレンジガーデニングプロジェクトをどのように取り組んでいくのか。

【上野補佐】 マリーゴールドやキバナコスモスといったオレンジ色の花を地域住民、介護施設や学校などで咲かせることで、認知症への理解と支援を促すことに繋げる取り組みである。方法としては、花の種を配付し、地域をオレンジ色の花で埋める、咲いた花の写真を持ち寄るなどを考えている。県内でも瀬戸市、大府市、豊田市、東浦市、知多市などが実施している。

【三浦会長】 認知症に関して柴山委員のご意見を伺いたい。

【柴山委員】 最近の認知症について Lancet Commission の研究を紹介したい。視力の低下と悪玉コレステロールが認知症の要因に追加されている。中年期になると聴力の低下や悪玉コレステロールに対処することでそれぞれ7%減少する。高齢者では、減少割合は社会的孤立が5%、肺の機能低下も影響するため空気汚染が3%となっている。これらの全てのリスク要因に対処することで45%減少できる。

今年度から認知症月間の9月に合わせて市民シンポジウムを開催することとし、春日井市での若年性認知症に関する取り組みも行う予定としている。

抗アミロイドβ抗体薬はレカネマブとドナネマブの2種類あり、投薬頻度に違いがある（前者が2週に1回、後者が4週に1回）が、投薬頻度が長いものの方が脳の出血が現れやすい傾向にある。

【三浦会長】 オレンジガーデニングプロジェクトについて、介護保険居宅・施設事業者連絡会としてはどのように連携していくのか。

【若月委員】 毎月の全体会でも認知症の啓発について取り上げており、オレンジガーデニングプロジェクトに関することも広めていき、今後は人材育成も含めて認知症への支援を広げていきたい。

#### ウ 生活支援体制整備について

【堀江主査】 資料に基づき説明

【三浦会長】 課題の一つとして地域の担い手不足が出ていたが、民生委員の立場から何か情報提供いただけるか。

【池田委員】 自分の地域では様々な高齢者の居場所を作っているが、子ども食堂などの運営については大人に混じって子ども達も携わっている。多世代の人が運営側になったり、お客さんになったりして会を盛り上げており活気づいていると思う。

【三浦会長】 ぷらっとMAPの活動も活発で素晴らしい取り組みだが、社会福祉協議会ではどのように関わっているのか。

【大塚委員】 地域福祉コーディネーターは、地区社会福祉協議会など地域の中の活動を支援して地域の活性化に努めており、様々な活動の中で地域活動に興味のある方を把握し、担い手不足の解消に取り組んでいく。

【三浦会長】 課題に挙がっていたが、介護保険や福祉制度についての理解があまり進んでいないのか。

【大野委員】 最近は高校でも福祉教育が行われているようで、若者には少しずつ理解されてきているのではないかと。一方、実際に介護している家族の世代においては理解があまり得られていないかもしれない。

#### エ 介護予防について

【堀江主査】 資料に基づき説明

【三浦会長】 アプリを使うものは高齢者でも活用しやすいものか。

【上野補佐】 聴能力アプリは、外部スピーカーの設定など操作方法の研修を受けた者が対応することとなっており、春日井市の場合は地域包括支援センター職員を中心に実施する。

いきいきポイントは、QRコードを読み込んで活用いただくもので、最近は様々な場面でQRコードを見るようになってきたためか、問題なく利用いただいている。ポイントをためると1ポイント1円で、年間上限5,000円分の電子マネーに還元される仕組みにな

っている。

【三浦会長】 保健事業と介護予防の一体的実施の取り組みについて、いかがか。

【白石委員】 令和7年度から12地区に拡大されているが、今後ポピュレーションアプローチの対象をどう広げていくのか、担い手不足については若い世代をどう取り込んでいくのかなどが課題か。

また、社会的問題としての孤立、孤独は、孤立感、孤独感も課題となるので、その違いを見極めて検討していく必要があるのではないか。

【三浦会長】 その他意見はないか。

【小栗委員】 ヒアリングフレイルについて、市民病院の耳鼻科から何か貢献できないかと意見が出ている。実際には市民病院においてフレイル関連で聴力検査をすることはむづかしく具体的に何をどうしていったらよいのか、ご提案いただけるとありがたい。

【上野補佐】 ヒアリングフレイルの市民講演会などで、講師と耳鼻科の医師とのコラボレーションも考えてみたい。

上記のとおり、令和6年度第2回春日井市地域包括ケア推進協議会の議事の経過及びその結果を明確にするために、この議事録を作成し、会長及び会長が指名する者が署名する。

令和7年5月21日

会 長 三浦 久幸

委 員 白石 知子